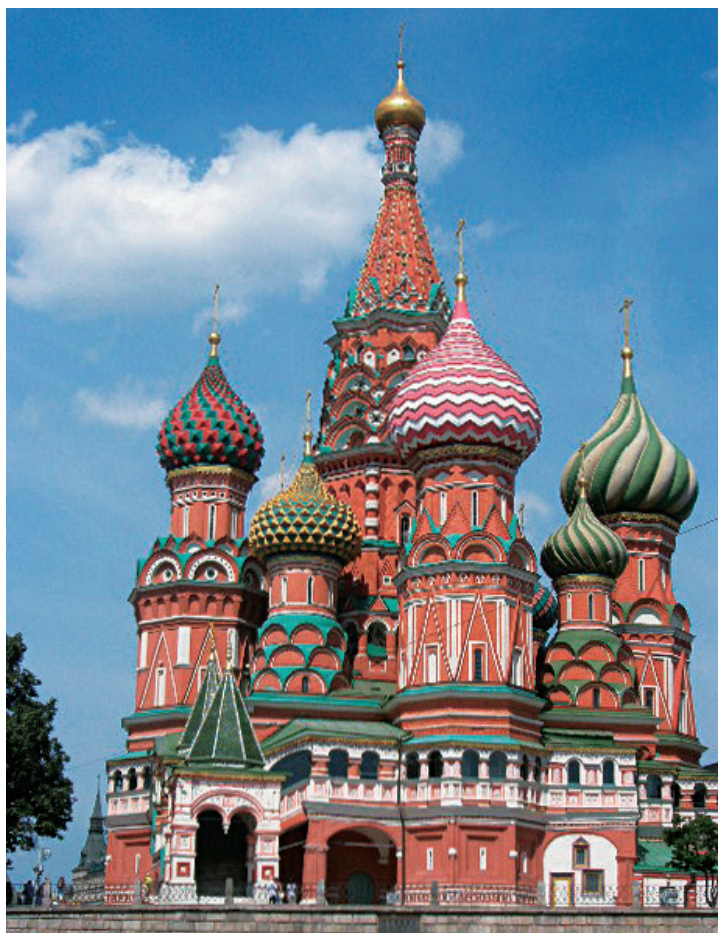


図書館報

第130号
平成27年2月20日
大分工業高等専門学校
図書館
大分市牧1666番地
TEL 097(552)6084
FAX 097(552)6786



モスクワの聖ヴァシーリー聖堂。16世紀にイヴァン4世(雷帝)が建設。1990年に世界遺産に登録

〈もくじ〉

題字「図書館報」	…………… (校 長 古川 明德 書)	…………… 1
扉写真：モスクワの聖ヴァシーリー聖堂	…………… 図書館長補佐 田中 美穂	…………… 1
先人達の言葉	…………… 校 長 古川 明德	…………… 2
図書館利用促進策は如何に？	…………… 図書館長 穴井 孝義	…………… 2
おおいた文学散歩(10) 葉室 麟『霖雨』を歩く	…………… 一般科文系 山田 繁伸	…………… 3
学生図書委員の活動報告	…………… 図書館長補佐 田中 美穂	…………… 4
思い出の一冊	…………… 機械工学科 尾形公一郎 ・ 電気電子工学科 田中 大輔	…………… 5
	…………… 情報工学科 野中 尋史 ・ 都市・環境工学科 古川 隼士	…………… 6
	…………… 一般科文系 本多 康作 ・ 一般科理系 原口 忠之	…………… 7
平成26年度学生図書委員名表	……………	…………… 8
平成26年度読書感想文・韻文コンクール入選者および貸出上位者・クラス表彰者	……………	…………… 8
編集後記	…………… 図書館長補佐 田中 美穂	…………… 8

先人達の言葉

校長 古川 明德



私が本校に着任早々の始業式において、学生諸君に「元気、やる気、勇気」とメッセージを贈りました。それは皆さんにとって、本人の健康も大切ですが「笑顔での挨拶」が周りの人に「元気」を与えること、そして高専に入学して大学受

験からの束縛もない5年間(専攻科まで進学したら7年間)の高専生活を満喫するには、何かをやってやろうという「やる気」と「根気」をもつこと、そして若さがもつ特権で「失敗が許される世界」に居る諸君ゆえに何事にでも挑戦する「勇気」を示すことこそが、大きな成長をもたらすものと信じるからであります。

私どもはいつも「喜怒哀楽」のなかで生活しています。できるだけ「怒」や「哀」のない生活を望みますが、そこは感情と個性を持った人間同士が織りなす世界ゆえに避けて通ることができません。しかし、一つの言葉がそれを和らげてくれること、そして幸せに感じさせてくれることがあります。「座右の銘」とは、その人の行動規範となる言葉ですが、そこまできっちりしたものでなくとも、そのような言葉をいくつ知っているかによって、その場に依じて言葉を思い出し、気持ちを転換させることができます。鋭い風刺や教訓を表す「ことわざ」も役に立つかもしれません。どうぞ多くの「ことわざ」を知り、ご自分の「座右の銘」は何かを考えてみるのも良いのではないのでしょうか。さて、次の「ことわざ」の意味はわかりますか。

- ・学問に王道なし、・鴨の水掻き、・艱難汝を玉にす、
- ・少年老い易く学成り難し、・青雲の志、
- ・暈の上の水練、・玉磨かざれば器をなさず、
- ・非学者論に負けず、・孟母三遷の教え、・有終の美

これらのことわざは、学生諸君に何かを感じて欲しいとの私の願いを込めて、掲げてみました。

平成25年6月にTBS系列のTVで放映されました「夢の扉 一次世代コンクリートで強いインフラをつくる！」では一宮一夫先生(本校都市・環境工学科教授)が「逆風はピンチだが、自分の船を前に進ませるチャンスになるのだ」と皆様にメッセージを贈って戴きました。なんと素晴らしい言葉ではありませんか。このように著名な知識人達は私共に示唆に富むメッセージを与えてくれています。「これは自分に・・・」とピンときたらメモっておくのも後で役に立つものです。

図書館には専門書だけではなく、人生の道標・教訓となる書など多数揃えてあります。どうぞ図書館を大いにご活用して、皆さんの総合的人間力を高めて下さい。

図書館利用促進策は如何に？

図書館長 穴井 孝義

昨年9月4日、5日の2日間にわたって、本校が主管校となり「第11回九州沖縄地区国立高等専門学校図書館長協議会」を開催しました。管内の10校からはそれぞれ図書館長ならびに関係事務職員が参加し、各校の抱えている諸問題について協議を行いました。その中で最初の議題に上がったのが「学習環境の整備と利用支援、図書館活用に関する取り組みについて」でした。要は、如何にして図書館利用を促進するかということです。それは、図書閲覧という本来の利用目的ばかりでなく、図書館ならではの静かな環境を様々な学習場面においても活用させるべく、如何にして図書館の利用度を上げるかということです。

学習環境の整備と利用支援に関しては、10校中6校が図書館内に「ラーニングcommons」とよばれるグループ学習室を設置していましたが、どの高専も試験前には静かな学習環境を求めて学生の図書館利用が多くなるものの、試験が終わると同時にまた利用度が下がるという共通の問題を抱えていました。

本校の図書館にも1Fに「メディア閲覧室」なるラーニングcommonsが設置されていますが、予算不足のため、残念ながら本来の「メディア閲覧」という名に相応しいだけの機器が設置されてはならず、学生諸君は専らSA(Student Assistant)による補講や試験前の学習会、レポートの執筆等に利用している状況です。その利用頻度はかなり高く、その点では好ましいことです。

また、図書館利用促進策に関しても、どの高専も頭を悩ませており、様々なスペースの設置や、各種イベントを開催するなどして利用度を上げようと熱心に取り組んでいる状況が覗えました。例えば、パソコン室や個別学習スペースの設置、図書展示コーナーの設置、ブックハンティングの実施、視聴覚教材を使った留学生のための授業開講、朝の読書会の支援活動、等々です。

本校でも図書館職員の指導の下、学生図書委員会が中心となつてのブックハンティングや読書会の開催、国語科教員の支援を受けての読書感想文コンクールの実施、さらには、同コンクール上位入賞者の感想文を掲載した作品集「もさく」の発行、図書多読者の表彰、県内の高校図書委員研修会への参加等々、積極的に活動を展開しています。ちなみに、ブックハンティングは、学生図書委員になると近接の大型書店で自分の好きな書籍を最大5冊まで自由に選べることから、学生の間では人気のあるイベントとなっています。こういうところから学生の興味関心を高めていくと、案外、図書館の利用度が上がるのかも!? 図書館利用促進策は、まだまだ開発途上です。

おおいた文学散歩 (10)

葉室 麟『霖雨』を歩く

一般科文系(国語科) 山田 繁伸

文庫本カバーに「天領の豊後日田で、私塾・咸宜園を主宰する広瀬淡窓と、家業を継いだ弟・久兵衛。画期的な教育方針を打ち出す淡窓へも、商人としてひたむきに生きる久兵衛へも、お上の執拗な嫌がらせが続く。大塩平八郎の乱が起きるなど、時代の大きなうねりの中で、権力の横暴に耐え、清冽な生き方を貫こうとする広瀬兄弟。理不尽なことが身に降りかかろうとも、諦めず、凜として生きることの大切さを切々と訴えた歴史長編」と的確な解説がある。

作品の舞台は、ほとんど日田である。冒頭は次のように始まる。

天保4年(1833)癸巳1月9日一

朝霧が深かった。庭先の木々でさえ滲んで、まるで水墨画を見るようで、遠くはおるかあたりはすべて白濁の中にあった。春浅い部屋の中では吐く息も白い。

広瀬淡窓は目覚めた時から霧が出ていることがわかっていて、52歳になる淡窓の体は霧の朝になると節々が痛んだ。

淡窓の住む九州、豊後の日田は一尺八寸山、岳滅鬼山、釈迦岳、渡神岳、御前岳に囲まれた盆地である。春から秋にかけての明け方、盆地をすっぽりと覆う霧を日田のひとびとは「底霧」と呼ぶ。

水郷日田と言われるように、周囲の山々から流れ出る清流が盆地のいたるところに見られる。盆地の南には筑後川の上流である三隈川が流れ、北には花月川が流れている。咸宜園は、日田駅にも近い盆地の中心部に位置する。咸宜園がこの地に移ったのは、文化14年(1817)である。その前は桂林園で、更にその前は淡窓24歳の時に開いた成章舎と言う塾であった。すべて咸宜園の近くにあった。塾生が多くなり、手狭になるにしたがって移転した。

咸宜園の敷地内には、秋風庵という建物が当時のまま保存されている。これは、淡窓の伯父の平八が建てた建物である。平八も病弱であったため、35歳で家業を弟(淡窓の父)に譲って隠居した。隠居した平八は、月化と号して、俳諧三昧の生活を送った。この伯父のもとで幼少のころ淡窓は育った。塾移転とともに淡窓は2階建ての新居を建て遠思楼と名付けた。遠思楼は



史跡咸宜園跡

現在秋風庵の隣に復元されている。

休道他郷多苦辛(道ふを休めよ 他郷苦辛多しと)
同袍有友自相親(同袍友有り 自づから相親しむ)
柴扉暁出霜如雪(柴扉暁に出づれば 霜雪の如し)
君汲川流我拾薪(君は川流を汲め 我は薪を拾はむ)

敷地内に漢詩碑として建てられているこの詩は、作品の途中と掉尾の二カ所に引用されている。途中で葉室麟は分かりやすく次のように説明している。

他郷での勉学は苦労や辛いことが多いと弱音を吐くのは止めにしよう。一枚の綿入れを共有するほどの友と自然に親しくなるものだ。朝早く柴の戸を開けて外に出てみると、降りた霜がまるで雪のようだ。寒い朝だが炊事のため、君は小川の流れて水を汲んできたまえ。わたしは山の中で薪を拾ってこよう、と詠っている。

故郷を遠く離れた地での勉学には苦労も多いが、寮での友達との共同生活も、人生の中の味わい深く楽しいものだ、と言う詩である。

辛苦に関して、私は衣食住の不十分さを言うのではなかろうかと思っている。衣食住の不十分さに対する辛苦を、親友と朝の美しい霜と共同作業の楽しさを提示することによってプラスに転換せしめているように解釈している。また、第4句は、作業の分担を言うだけでなく、楽な仕事を友達に頼み、きつい仕事の方を自分が取ろうとしている。水郷日田なのだから、水はすぐそこまで行けば簡単に汲める。しかし、薪は盆地周辺の山まで行かねばならない。だから、薪拾いの方がきつい仕事となる。咸宜園の敷地内には、大きな亀を台座にした月化の句碑も見ることができる。

作品は、天保4年から天保8年までの淡窓と久兵衛が描かれている。二人は、その間、代官塩谷大四郎から難題を持ちかけられる。私欲を貪ることはないが、名誉欲や立身出世欲の強い代官は、咸宜園の教育に干渉したり、久兵衛には新田開発などの大規模な土木仕事を命じたりする。「霖雨」とは、幾日も降りつづく雨のことで、降りかかる難題を象徴している。

作品の二カ所に「たとえ霖雨の中にあろうとも進むべき道を誤ってはなるまいとな」「この世に生れて霖雨が降り続くような苦難にあうのは、ひととして生まれるための雨に恵まれたと思わねばなるまい」と主人公淡窓に語らせている。

葉室作品には、凜として生きる主人公がよく出てくる。この作者の直木賞受賞作品である「蝸ノ記」も同じ系列の作品である。こちらの舞台は、豊後羽根藩。架空の藩ではあるが、「羽根藩の七島筵の評判は高く」と描いているところから察すると杵築藩であろうか。



「休道の詩」詩碑

学生図書委員の活動報告

夏休み中の8月5日に別府の亀の井ホテルで第50回大分県高等学校図書委員研修会が開催されました。大分高専の図書委員3名が当日参加しました。三つの読書会に分かれており、それぞれ課題図書を前もって読み、討論に参加することになっていました。午後は三つの技術講座があり、こちらもそれぞれ違う講座に参加しました。

1Eの姫嶋真輝君が参加した第1読書会の課題図書は『アヴェ・マリアのヴァイオリン』という、第二次世界大戦時のアウシュヴィッツ収容所などが舞台となっている本です。この読書会では、詳細な資料が配布されていました。姫嶋君は午後、ブックカバー作りに挑戦しました。

姫嶋君の感想です。「他の学校の人と一つの本について語り合うことで、本の新しい楽しみ方を知りました。(ブックカバー作りは)テープと布だけで作れてとても簡単でした」。

1Sの多賀舜哉君は第2読書会に参加しました。課題図書は『路上のストライカー』でした。ジンバブエでの虐殺から南アフリカに逃れたサッカー少年の物語です。多賀君は手作りPOPの講座に参加しました。

多賀君の感想です。「いろいろな学校の人と同じ本について、いろいろと語り合えて楽しかったです。POP作りの講座では、見た人が面白いと思えるような作り方を学べてよかったです」。

1Eの友清伊織君は、『ぼくたちはなぜ、学校へ行くのか。』が課題図書の第3読書会に参加しました。「マララ・ユスフザイさんの国連演説から考える」という副題がついています。マララさんは、2014年にノーベル平和賞を受賞しました。この読書会では、いくつかのグループに分かれ、グループごとに理想の学校について話し合い、最後に発表をしていました。いろいろとユニークな学校が模造紙に描かれていて、どれも興味深い発表でした。友清君は、午後は、図書館報の講座に参加しました。

友清君の感想です。「知らない人と本のことを通じて親しくなってよかったです。客観的に自分が興味を持って思えるような図書館報を作るのは難しいと感じました」。

(引率教員＝一般科文系・田中の感想)

各読書会の課題図書の選定が、どれも素晴らしいと思えました。戦争や紛争、現在の世界の諸問題をあつかっており、日本とはかけ離れた困難な境遇の中で暮らす子どもたちにスポットが当てられているからです。三つの読書会、三つの技術講座を巡回しましたが、高専1年生の3人が、大分県下から集まった他の高校生に交じって、積極的に活動に参加していたので頼もしく思えました。3冊の課題図書はすべて本校の図書館にありますので、みなさんもぜひ借りて読んでみてください。

11月7日の放課後に、ビブリオバトルが開催されました。ビブリオバトルとは、参加者が紹介する本を選び、本を持って皆で集まり、1人5分ずつ持ってきた本について話し、皆で投票して「チャンプ本」を決定する書評合戦のことです。当日、教員2名を含む15名ほどが集まり、二つのグループに分かれて行われました。Aグループは、ほとんどが1年生で、勝者に選ばれた本が池澤夏樹の『叡智の断片』。Bグループは各学年が交じり、藤木稟『パチカン奇跡調査官』が選ばれました。最後に各グループの勝者が対決し、「チャンプ本」に『叡智の断片』が輝きました。

当日参加していた図書委員長の4E平野瑠唯さん(「チャンプ本」の選定者でもあります)と副委員長の4S小谷朋生さんにお話を伺いました。ちなみに『パチカン奇跡調査官』を選定したのは、2M高橋雄文君です。

Q「なぜビブリオバトルを計画したのですか？」

A「数年前にやったと聞いていて、図書係の方に提案されたからです」。

Q「やってみてどうでしたか？」

A「自分の選んだ本の紹介が難しかったです。好きな本のことを伝えるのが難しかった」「聞く側として新鮮でした。それぞれ全く違う内容の本を選んできたので。知らない分野の本を読みたくまりました」「プレゼンがうまくいった本が選ばれた感じです。熱意の強さがありました」「高専生は読書量が少ないイメージがあり、不安でしたが、うまくというより、熱く伝えられていました。その本が好きだという気持ちがよくわかりました」「1年生ばかりで質問してくれるか心配でしたが、みんないい質問を出してくれました。意欲がありました」「発表時間のオーバーを止めるのが難しかったです。タイマーの音が鳴っても止まってくれなくて」。

Q「なぜ優勝したと思いますか？」

A「口頭で伝えたいことを何度もくり返しました。ブラックジョーク(の面白さ)が伝わったのかな」。

※この他にも、ブックハンティングなどの行事がありますので、図書委員以外の方もぜひ、参加してみてください。



(文責：田中 美穂)

思い出の一冊



『中谷巖の「プロになるならこれをやれ!」』

中谷 巖著
機械工学科 尾形 公一郎

現在、本校で学び、将来はプロのエンジニアになる皆さんに表題の書籍を紹介したいと思います。常々、私は「人間力を高め、日々成長したい」と考えて行動しています。また、「何か面白そうなおことはないかな?」と周囲を見ながら過ごしています。このような、変人(?)な私は「プロになるなら」の文字に、「面白そうだな」と感じて本書を手に取りました。加えて、著者の中谷先生が当時ワールドビジネスサテライトに出演されている姿を視聴していた際に、論理的で非常に分かりやすく、本質を突いた話をされる方だなとの印象を持っていたことも理由でした。

さて、本書の内容について触れたいと思います。本書は中谷先生のご経験などをもとに、本気で「プロになって自立した人生を歩みたい人」に向けて書かれた人生哲学に近い話を中心です。ここでは、学生の皆さんに実践して欲しい3点を紹介します。まずは、「一万時間をかけてスペシャリストを目指せ」です。プロは自分の専門領域を確立しており、その専門性を得るためには時間に投資が必要と述べています。正にその通りだと思います。本書では大学院の博士号取得を例にとって「一万時間=8時間×250日×5年間」と記述されていますが、この期間は皆さんが本校で学ぶ5年間に相当します。この意味は「専門性を学ぶことに集中」すれば、全ての皆さんがスペシャリストになれるチャンスがあるということです。次に、「社会との関連性を意識する」です。前述した「専門性を学ぶこと」のみ実践すれば良いかといえば、答えはノーです。本書では、世の中との関連を意識し、社会的使命感を持って物事に取組む人がリーダーになれると書かれています。私もそう思います。将来は皆さんの中にもリーダーになる人が出てくるのではないかと思います。仲良しクラブではなく、ニュースや新聞を読んで社会情勢を知り、外部の人と関わって自分自身の幅を広げればチャンスはありますよ。最後に、「気づき」です。本書では、皆さんが「プロになりたい」という気持ちに「気づく」ことが最も重要で、自分の気持ちに気づいて時間を投資して努力すればプロになれると述べています。私も皆さんと同年代の頃には5年、10年後の自分の将来を見据えて行動した記憶があります。自分自身の経験談からも「気づき」⇒「時間を投資」⇒「社会性」のサイクルで好循環できれば、一つの専門性だけではなく、多くの強みを備えた人物になれるのではないかと思います。皆さんはまだまだ若いので、今から努力すれば10年、20年後にきっと楽しい人生が待っていますよ。



『人生はニャンとかなる! 一週日に幸福をまねく68の方法』

水野 敬也, 長沼 直樹著
電気電子工学科 田中 大輔

私の推薦図書は、普段あまり本を読まない学生にも親しみやすい一冊です。実は犬バージョンの本「人生はワンチャンス!」もあります。どちらもかわいい猫や犬の写真と、古今東西の偉人のエピソードや言葉が記されており、その下に関連する偉人の名言が書かれています。本好きな学生は、本を容易に手に取り、読み始めることができると思いますが、みんながみんなそうではないでしょう。この推薦図書は、普段、本に馴染みの薄い学生が偉人の伝記などを手にとるための「きっかけ」になれば良いなあと選びました。ページにはテーマが設けられており、リラックスしたいときや元気がほしい時にも役立つ本だと思います。下記に内容を少しだけ紹介します。興味があった学生はぜひ、ニャンとか読んでみてください。

1. スティーヴ・ジョブズ「摩擦を恐れない」

アップルの創業者、スティーヴ・ジョブズは議論を恐れない人でした。ある時、開発中のマッキントッシュの起動時間を短くするように命じ難色を示すエンジニアに対しても説得するのをやめませんでした。「仮に起動時間を10秒短くするだけで人の命が救えるなら、そうするか?」と問い、こう続けました。”世界中でマックを使う人が500万人いた場合、1日10秒、余計な時間がかかると年間3億時間ほどの違いになる。言いかえれば1年間で100人分以上の人生に相当する節約できるんだ”この言葉に刺激を受けたエンジニアは、その後の数週間で起動時間を28秒も短縮したといえます。より良いものを創るためには、意見を戦わせることを恐れてはいけません。

2. トーマス・エジソン「一日一笑」

エジソンほど「笑顔」を大事にしてきた人はいないでしょう。彼が、耳を悪くした時も「お陰さまで雑音にわずらわされることなく集中できるようになった」と笑い、ある晩、自分の工場が全焼するという災難に見舞われた時も、エジソンは火事の美しい光景に見とれ、この美しさを父親にも見せてやろうと電話をかけました。さらに、この夜間の火事で、煙に視野がさえぎられて十分な消火活動ができていないことに気づきエジソンは、早速、消防用の強力なサーチライトを考案したのです。エジソンの研究は、彼がどんな苦境に立たされても笑顔を忘れなかったからこそ生まれたものとも言えるかもしれません。日々の暮らしの中では、喜べないこともあるでしょう。しかし、そんなときこそ、忘れてはならないのが「笑顔」です。

思い出の一冊



『企業評価と信用リスク』

帝国データバンク著
情報工学科 野中 尋史

この本は、企業が倒産する確率について数学モデルを利用して予測する手法を主題としている。著者である帝国データバンクは新聞などでご存知

の方も多いのではないだろうか。この会社は、企業倒産に関するデータを豊富に持っていることにより倒産情報の権威となっている。本書の主題となっている、企業の倒産可能性（信用リスクともいう）を見積もることはきわめて重要となる。倒産した企業と取引を行っていた場合、販売した商品の代金の未回収などにつながり最悪の場合、自社も資金繰り悪化により巻き添えを食らう可能性がある。また、金融機関にとっては貸出先企業の倒産は、不良債権の増加に繋がる。このため、企業倒産の予測はきわめて重要な課題となっている。しかしながら、企業の倒産を予測するには様々な要因が複雑に絡んでくるため、なかなか難しいのが現状である。そこで、本書では、ロジスティック回帰などの数学モデルと様々な財務指標、および、調査員の調査結果などを利用して倒産確率の予測を行っている。詳細については、ぜひ精読していただきたいが、この本から導かれる知見（本書の主題とは外れるが・・・）で、学生さんにぜひ言っておきたいこととしては以下のことがあげられる。まず、経営学をはじめ文系科目の知識は非常に重要であるということである。S科の学生さんと話していると、文系科目なんて必要ないなんて暴言を吐く子がいる。しかし、これは間違いであり、企業倒産予測のような社会ニーズが極めて高い情報システムを開発するためには、財務に関する知識など経営に関する知見が必要となる。また、他の情報システムを見てもgoogleのような検索エンジンを開発するには語学に関する知識も必要となるなど、情報工学をはじめとする理系の学問の知見だけでは、ニーズの高い情報システムの開発は無理なのである。このことは、情報工学に限らず、他の専門工学分野でも同様であろう。社会科学や人文科学からなる文系科目の知見を深めておかないと良いエンジニアになれない！と本書は示唆している。一方で、S科の学生さんの中には、数学が何の役に立っているか分からないという人もいる。これについてもロジスティック回帰のような、高専で学習する数学を応用したモデルを利用しなければ倒産確率は予測できないことを本書は教えてくれる。先端的な情報システムは数学の力無しには生まれないのである！最後に一言。どうですか、皆さん。幅広く文理の教科を学ぶ気になりましたか？この本を読んでもらうと同時に勉強も頑張ってくださいね！



『森が消えれば海も死ぬ』

松永 勝彦著
都市・環境工学科 古川 隼士

「漁師が山に木を植える」、このフレーズに当時大学4年生であった私は大きな衝撃を受けたことを鮮明に覚えています。私が紹介する「森が消えれば海

も死ぬ」は、1993年に初版が出版され、2010年に第二版が出版されました。大学4年生というと、研究室に配属され卒業研究に取り組む時期です。私は、水環境研究室に所属し沿岸域を研究フィールドとした卒業研究に携わり始めました。この本は、その時に研究室の先生に紹介して頂いた一冊であり、河川流域や河口域の生態系保全に加え、水循環や物質循環の役割と重要性をより深く理解させてくれるきっかけとなり、現在、大分高専の教員・研究者としてはたらく基礎を築いてくれたと言っても過言ではないと思っています。さて、少しだけ本の内容に触れたいと思います。沿岸域というのは海藻や魚介類が豊富に生息できるため、非常に生物生産力の高いエリアです。これは、河川を通じて沿岸域まで運ばれてくる栄養塩やイオン類が豊富に存在していることに起因します。その中でも、鉄(Fe)は食物連鎖の根底を担う植物プランクトンや海藻の成長と増殖、あるいは光合成に必要な不可欠な元素です。しかし、海水中でほとんどの鉄は粒子状で存在しており、生物が利用できない形態です。生物が利用可能な鉄イオンの形態で存在するためには、腐植物質と呼ばれる有機物の存在が必要になります。この腐植物質と鉄とが結合することで、鉄がイオンとして水中に溶けた状態になり、生物が容易に利用できるようになります。では、この腐植物質の供給源はどこかというところ、腐植物質は枯葉等が分解されて、最終的に生成される有機物のことを指します。この腐植物質と鉄が結合した物質が河川に流入し、沿岸域まで運ばれることで生物が鉄を利用でき、前述した沿岸域の豊かな生態系を形成していることになります。すなわち、豊かな森が存在する流域では、豊かな沿岸域が存在するということです。

本の内容が少し長くなりましたが、この他にも本来あるべき地球環境の姿が、水・物質循環、さらには豊かな生態系の形成に如何に合理的に寄与しているかに関して、非常にわかりやすく記述されています。さらに、「森と海」のように、一見すると別物として捉えられがちな要素が、実は強い“つながり”があり、学問は、他分野間の境界に新たな分野があり、それに目を向けることの重要性を理解させてくれた一冊です。この本との出会いが研究者としての第一歩を踏んだ大学4年生であったこともあり、水環境の研究を進めていく上での貴重なバイブルとなっています。

思い出の一冊



『ユング自伝 1、2
—思い出・夢・思想—』
アニエラ・ヤッフエ編、河合 隼雄他訳
一般科文系 本多 康作

本書は、分析心理学の創始者であるカール・グスタフ・ユング(1875-1961)の自伝です。とはいえ、私はここで、ユング心理学の学習の薦めをしたい

わけではありません。人生をいかに生きるべきか。この古典的な問いに、もしあなたが直面し悩んでいけば、本書を読む価値があるかもしれません。なぜなら、この問いの厄介さは、その解答がどこにも見当たらない(ようにみえる)ことにあるからです。仮に我々に選択の自由が与えられているとして、そのとき、あなたは何を手掛かりに行為の選択をしますか。どの選択肢を選択するべきでしょうか。

まず、目の前に広がる様々な事実(の世界)の中に、その手掛かりを見出すことはできるでしょうか。哲学の世界では、「いかにあるか」という事実と、「いかにあるべきか」という価値との論理関係を巡って、長い間、議論が交わされてきました。例えば、事実判断から価値判断を導出する推論は「自然主義的誤謬」であるといったように。では、次に、価値の世界の中に、その手掛かりを見出すことはできるでしょうか。例えば倫理学を学べば、ある立場に立った場合にどの選択肢を選択することが道徳的に正しいかを知ることができます。しかし、ここでの問題は、いかに科学ないし学問を勉強しても、いまのところ、自分の人生をいかに生きるべきかという問いに対する解答は得られないことにあります。私がどうするべきかに関しては、学問は何も答えてくれません。ユングは、「私は自分自身を科学的な問題として知ることができない」と述べています。そして本書は、「私の一生は、無意識の自己実現の物語である」という一文からはじまります。

ユングが本書で語っていることは、ユング自身の内的世界の出来事ばかりです。「訳者あとがき」で河合隼雄も述べているように、ユングにとっては、内的な世界は外的な世界と同じく「客観的な」一つの世界であり、ユングによれば、「内的なことだけが、実体性をもち、決定的な価値をそなえて」いたのです。ユングは自分の道しるべとして、無意識からの「声」に耳を傾けます。そしてその「声」を聴く方法として、例えば夢に着目するのです。

自分の人生をいかに生きるべきか。もしこうした問いに直面し悩んでいる人がいれば、本書は、それに対する「ある種の救い」をもたらしてくれるかもしれません。あるいは、上述した学問上の問題を考えてみたい人にも、多くの示唆を与えてくれるかもしれません。



『三国志』
宮城谷 昌光著
一般科理系 原口 忠之

今まで読んだ本の中で特に記憶に残る一冊をあげるのであれば「三国志」である。私は幼少の頃より本を読む習慣はあまりなく、読み始めたとしても読破することはできず、あえて言うなら、夏休みの宿題である読書感想文の課題図書

を年に1回ほど読んでいた程度である。そのような私でも引き込まれた本が、今回皆さんにお薦めしたい「三国志」である。まず、なぜ読書嫌いの私がこの本を手にとることになったか経緯を説明したいと思う。

大学受験時代に、現代文と漢文が特に苦手であった私はこの二つの教科の力を同時につけるには、中国史を読めばよいのではないかと単純に考えたことがきっかけである。しかし、ただ中国史を読むにしても全く知らない年代について読むことは大変なので、多少聞いたことのある三国志を選んだのである。

ここからが本題であるが、「三国志」を読んで、特に考えさせられたことは、「見事に生きるとは」ということである。民の安寧を考える王、義を貫く武将、私欲に走る文官など、様々な個性をもつ登場人物がいるが、不運にも「見事に死んでいった」武将は数知れない。関羽、荀彧、周瑜・・・そのほかにも大勢いる。これら多くの武将は共通して、国のことを考え、王に忠義を尽くし、国民のことを考えていた。そして渦巻く強大な歴史の渦の中に見事に散っていった。

「三国志」にはそうした彼らとは逆に、多くのことを成し遂げ、「見事に生きた」人物も描かれている。その人物とは、魏の司馬懿仲達である。彼は、三国志で最も優れた軍師として有名な蜀の諸葛孔明の北伐遠征のときに、劣勢に陥ることが多々あり、諸葛孔明と比較されることが多い。しかし、彼は、自分の信念を貫き、西晋の礎を築き、そして志を達成し、夢半ばに倒れることなく見事に生き抜いた。そういう意味では、夢半ばで倒れた??諸葛孔明よりも優れた武将としてあげられても不思議ではない。

「見事に生きる」という言葉を定義することは、非常に難しいことであるが、この物語に触れ、私は「志を達成して生き抜く」ことこそが「見事に生きる」ということであると考え。皆さんにも是非、この本に触れ、この先、いかに自分の人生を切り開いていくのかを考えるきっかけにいただければ幸いです。皆さんには、志次第でいくらかでも開花できる可能性があることに気付いてほしい。そして、私自身も、これから先の人生、その時その時の目標を達成し続け、「見事に生きたい」とここに宣言する。

平成26年度 学生図書委員名表

学科 / 学年	任期	機械工学科	電気電子工学科	情報工学科 (制御情報工学科)	都市・環境工学科 (都市システム工学科)
1	1年	岩下 建	姫嶋 真輝	多賀 舜哉	今村 魁士
	前期	新納 和希	友清 伊織	河野 実裕	安部 未来
	後期	片伯 部拳磨	宇都 宮優佳	河野 実裕	田中 凌央
2	1年	高橋 雄文	新銅 惇朔	斎藤 征孝	安部 芽吹
	前期	用松 一真	平川 康平	荷宮 怜史	高橋 ひなた
	後期	佐藤 拓実	後藤 彰太	平井 雅人	高橋 ひなた
3	1年	安藤 達也	川野 航平	相澤 瑠奈	森田 真由
	前期	淡野 直人	佐藤 久周	尾崎 光	山田 麻矢
	後期	淡野 直人	佐藤 久周	尾崎 光	山田 麻矢
4	1年	高木 洸	荒金 直樹	○小谷 朋生	大山 太郎
	前期	川野 厚樹	◎平野 瑠唯	吉田 龍矢	坂本 春樹
	後期	川野 厚樹	◎平野 瑠唯	吉田 龍矢	アズルル アリス
5	1年	幸 和範	斎藤 堯夫	三浦 晴成	梶原 雄二
	前期	横尾 奎志郎	松井 敏孝	中山 拓	金山 祐太
	後期	横尾 奎志郎	杉原 勇也	中山 拓	金山 祐太

*図書委員は上段が1年任期 ◎学生図書委員長 ○学生図書副委員長

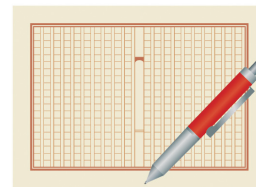
平成26年度 読書感想文・韻文コンクール入選者

読書感想文の部

	クラス	氏名	作品名	著者名
第1位	2E	平野 音瑠	フィンランド教育成功のメソッド	諸葛 正弥
第2位	3E	箕井 梨乃	ハッピーバースデー	青木 和雄
第3位	3E	佐藤 駿	置かれた場所で咲きなさい	渡辺 和子
佳作	1M	石川 耕雪	氷雪の門	松山 善三
//	1S	工藤 琴乃	告白	湊 かなえ
//	2M	池邊 将暉	形	菊池 寛
//	2S	野尻 大貴	高瀬 舟	森 鷗外
//	3S	伊藤 有汰	負けかたの極意	野村 克也
//	3S	中本 敦子	沈黙(『レキシントンの幽霊』に所収)	村上 春樹
//	3C	須賀 紗代子	心の国境をこえてーアラブの少女ナディア	カワ・ロニフェル・アミット著 母袋 夏生 訳

韻文の部

	クラス	氏名
短歌部門 最優秀賞	3C	山本 雅人
俳句部門 最優秀賞	2C	久門 祐介
詩部門 最優秀賞	2S	芦刈 茉奈美



平成26年度 貸出上位者・クラス表彰者

貸出上位者

順位	クラス	氏名	貸出冊数
第1位	4C	吉武 愛佳	135冊
第2位	2E	中尾 優太	118冊
第3位	1M	松越 啓樹	95冊
第4位	1E	吉野 佑弥	82冊
第5位	5S	中山 拓	77冊
第6位	1E	平川 裕人	66冊
第7位	2M	高橋 雄文	60冊
第8位	4C	山本 寧音	57冊
第9位	3E	ブット カイウモノリット	56冊
//	1C	小島 広行	56冊

貸出上位クラス

順位	クラス	貸出冊数
第1位	5S	298冊
第2位	4C	297冊
第3位	1E	273冊



編 集 後 記

多くの教職員と学生図書委員の皆さんのご協力を得て、図書館報130号(平成26年度)を発行することができました。お忙しいなか、執筆を快く引き受けてくださった先生方、取材(?)に応じてくれた学生図書委員の皆さんに心より感謝いたします。図書館長補佐として、1年間、図書館の諸行事に参加させていただきました。学生図書委員会、読書会、ブックハンティング、大分県高等学校図書委員研修会、ビブリオバトル…。本好きの高専生とともに、楽しい時間を過ごさせていただきました。ネット時代だからこそ、学生の皆さんには、図書館に足を運び、直に本を手にとってもらいたいと願ってやみません。